



令和3年10月20日  
旭川開発建設部  
ヤマト運輸株式会社

## 「道の駅」を拠点とした中継輸送実証実験を開始します！

～「生産空間」の暮らしと産業を支える物流の維持に向けて～

旭川開発建設部とヤマト運輸株式会社は、「道の駅」の駐車場を長距離物流の中継輸送拠点として活用することで、トラックドライバーの長時間労働の負担を軽減し、「生産空間」\*の物流の維持を目指した中継輸送の実証実験を下記のとおり実施します。

北海道地方部は、「食」や「観光」という北海道の強みを提供する「生産空間」であり、「生産空間」に住み続けられるよう、地域の暮らしや産業を支える物流の維持は重要です。

しかし、トラックドライバーの高齢化や担い手不足が進み、今後、時間外労働規制の適用に向けた取組みを着実に実施する必要があります。特に、北海道は広域分散型地域構造で、トラックドライバーの長時間労働が負担となり、物流の維持の大きな課題となっています。

このため、幹線道路沿いに立地し、休憩機能等を有する「道の駅」の特性を活かして、「道の駅」駐車場の一部を長距離物流の中継拠点として活用することで、長時間労働の解消により、トラックドライバーの負担を軽減し、「生産空間」の物流の維持を目指した実証実験を開始します。本実験を通じて、道北地域における「道の駅」を中継輸送拠点とすることの可能性を検討いたします。

\*「生産空間」については、以下 URL (北海道開発局ホームページ) をご覧ください。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/keikaku/splaat0000013gzk-att/splaat0000013h6g.pdf>

### 記

- 実施日程 令和3年11月上旬～中旬に複数回実施予定  
(後日、実施日や駐車場利用方法について記者発表を予定)
- 実施場所 道の駅「もち米の里☆なよろ」 名寄市風連町西町 334 番地 1
- 実施主体 北海道開発局旭川開発建設部及びヤマト運輸株式会社  
※本実験は、本日締結された「北海道開発局とヤマト運輸株式会社との北海道の生産空間の維持・発展に資する連携協力協定」に基づき実施
- 実施内容 別紙

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部

道路計画課 課長 おさない まさひろ 長内 正宏 (0166) 32-4285

道路計画課 道路調査官 おおにし こうき 大西 功基 (0166) 32-4285

旭川開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/as/>

旭川開発建設部公式 Twitter アカウント @mlit\_hkd\_as



ヤマト運輸株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL:03-3541-3411



# 「道の駅」を拠点とした中継輸送実証実験

- 「北海道開発局及びヤマト運輸株式会社の北海道の生産空間の維持・発展に資する連携協力協定」に基づき、北海道地方部の生産空間の暮らしと産業を守るために不可欠な物流を維持するため、道の駅を拠点としたトラック中継拠点の実証実験を実施
- 幹線道路沿いに立地し、休憩機能等を有する「道の駅」の特性を活かし、物流事業者同士が連携して中継輸送を実施することで、双方のドライバーの拘束時間を短縮し、各物流事業者の強みを活かして生産空間における物流サービスの維持に貢献

## 物流の現状・課題

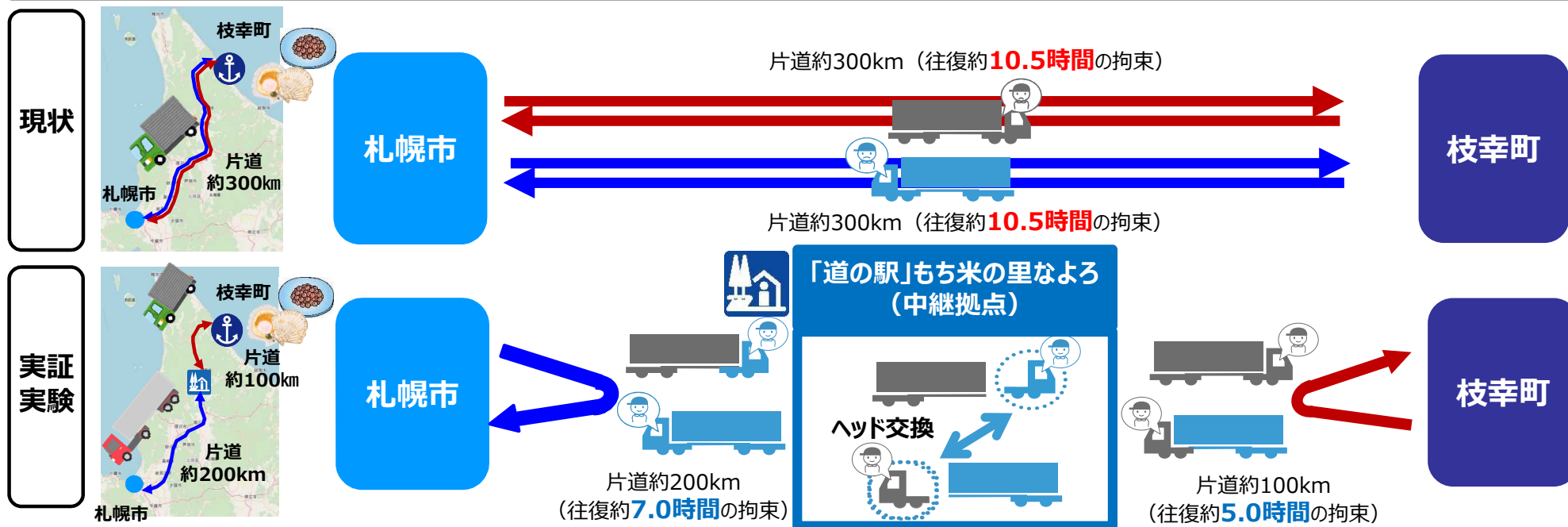
- ・トラックドライバーの高齢化や担い手不足が進んでおり、更に時間外労働規制の適用に向けた取組みの着実な実施が必要
- ・特に、北海道は広域分散型地域構造で、トラックドライバーの長時間労働が負担となり、物流の維持の大きな課題

## 実験内容

「道の駅」もち米の里☆なよろをモデルに※、「道の駅」を拠点とした中継輸送の実証実験を行い、そのニーズや効果、必要な駐車スペース等の課題を検証し、道北地域における「道の駅」の中継輸送拠点化の可能性を検討

※道北と道央の間に位置すること、駐車スペースが大きいこと等から選定

### 実験イメージ（枝幸町～札幌市間の冷凍ホタテ・冷凍イクラ輸送の場合）



## 連携による取組体制



旭川開発建設部

実験・調査計画の検討、実験スペースの確保、とりまとめ等



ヤマト運輸株式会社

ヤマト運輸

実験に参加する物流事業者の調整を含む中継輸送、効果検証への協力等